

Desert Wind (No.21)

Las Vegas Japanese Community Church

AUGUST 2008

『わたしは荒野に道を設け、さばくに川を流れさせる』(イザヤ 43:19)

編集：平山未樹

『キリストに従う生活』(マタイ16:24)

LVJCC 牧師 鶴田健次

20世紀を代表するドイツの神学者ディートリッヒ・ボンヘッファーは、ナチスを批判し、ヒトラーの暗殺計画に加担したということで、第二次大戦中、ポーランドの収容所で処刑されますが、彼が残した有名な言葉に、『キリストの弟子でない救いは安っぽい恵みである』というのがあります。つまり、自分の救い、自分の祝福、自分の喜びにしか興味がなく、キリストのために犠牲を払いたくないクリスチャンは本物の恵みを味わうことなど出来ないという意味です。

イエス様は決して安っぽい恵みなどを教えられたのではありませんでした。本物の弟子としての信仰生涯は犠牲を伴うものです。しかし、たとえどんなに犠牲があっても、本物の弟子として生涯は、その犠牲にはるかに勝る喜びと満足と充足があり、神の業を経験するスリルに満ちています。そこで今回は、マタイ16:24の御言葉から、本物の弟子としての3つの資格についてお話したいと思います。

まずキリストの弟子としての第一の資格は、①キリストに従う願望がある、ということです。24節を見ると、「だれでも私に付いて来たいと思うなら、・・・」とイエス様は言われました。つまりこれは、誰でもキリストに従いたいという願望があるならばということです。皆さんはその願望を

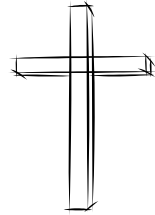
お持ちですか。「願望」というのは力強い言葉です。願望には、飢え乾いた、燃えるような情熱があります。ですから、キリストの弟子であるとは、まず、そうなりたいという願望によって始まるのだと言えます。

次に、キリストの弟子としての第二の資格は、②自分を捨てる、ということです。24節の次の御言葉を見ると、「自分を捨て」と言われています。つまり、この言葉が伝えたいメッセージは、「あなたの人生の運転席に座っているのはあなたではなくキリストである」ということです。信仰生活を通して本物の恵みを味わうためには、「自分を捨てる」、「キリストに自分を明け渡す」、あるいは「自分が死にキリストが生きる」という、いわば立場の逆転を認めなければなりません。ローマ書の6:6を見ると、「わたしたちの内の古き人はキリストと共に十字架につけられた」とあります。つまり十字架の恵みを本当に体験できた人は、自己中心に生きていた古い自分を捨て、キリスト中心に生きることを願うようになるのです。

キリストの弟子としての第三の資格は、③自分の十字架を負う、ということです。続いて24節の次の御言葉を見ると、「自分の十字架を負う」ことがキリストの弟子としての資格であることが解かります。つまり、この言葉に含まれるメッセージは、「苦しみから逃げずに、それを受け止めなさい」ということです。21節から23節を読めば解かりますが、神が備えられた道に伴う

苦しみを避けることは、神の御心ではなく、人間の思いである、ということです。イエス様は、その苦しみを「十字架」と言われました。しかし、私たちの十字架は、神の御心に従うからこそ受ける試練であり、それはやがて祝福につながるものなのです。

最後にキリストの弟子としての第四の資格は、④キリストに従う、ということです。24節の最後で、イエス様は、「わたしに従ってきなさい」と言われました。つまり、キリストに従うことは、キリストの弟子としての資格です。私たちがどれだけキリストの本物の弟子であるかどうかは、私たちがどれだけキリストに従っているかで測ることが出来ます。本物の弟子はその師の心をくみ取り、それを実行に移そうとする筈だからです。イエス様の心は愛です。ですから、その愛をもって互いに愛し合い、イエス様を証しすることが、イエス様の御心です。「もしあなたが互いに愛し合うならば、それによって、あなたが私の弟子であることを、すべての者が認めるであろう」とイエス様はおっしゃいました。あなたはキリストの弟子ですか？



証し

山中綾

過去を振り返るといつも神様が私を導いてくれたのだと思います。父はクリスチャンではありませんでしたが、何故かプロテスタント系の茅ヶ崎にある、アレセイヤ平和学園(現在のアレセイヤ湘南高等学校)を選び、私はその高校に通いました。毎朝講堂の中で、神様を賛美し、礼拝し、聖書の学びをするという、今思うと恵みの学生生活ですが、その時は全く意味も分からず、イエス・キリストが誰かも分からず、朝礼だと思って参加していました。ただ、よく分からなかったものの、その高校生活で祈るということは朝の礼拝で自然と身についていました。心の目は開いておらず、何を言われても、自分の周りで起こっていることに自分が中に入らない様な、そんな気分でした。今でも覚えているのは、賀川豊彦の話や、大好きだった賛美歌「感謝します」という曲です。「感謝します」も大好きでよく歌っていましたが、その歌が誰に感謝している曲かも分からず、漠然とお父さんとお母さんに感謝を捧げている曲だと思っていました。

高校を卒業してしばらくして、獣医を目指してユタ州の Snow College へ留学することになり、渡米。その翌年、1995年には親戚の住むカリフォルニアへ引越し、Citrus College へ編入しました。獣医を目指したものの、語学や専門用語は難しく、カリフォルニアでは英語や一般教養を学びましたが、ゆっくりと勉強していたこともあり、卒業する前に親からの仕送りがストップされました。そして、働きながら勉強できると言われ、98年にラスベガスへ引越してきました。ツアーガイドの仕事を始めましたが、仕事は忙しく、勉強はすることも出来ず、結局ツアーガイドとして就職をしていました。

ラスベガスで出会った前の夫とは99年に結婚しました。日本でお祖父さんが亡くなり、日本とアメリカで離れ離れでは寂しいから、また私が日本からアメリカに戻ってくるかどうか不安だった夫は、結婚という形をとって、私と繋がっていることを望み、その結果、結婚という選択をしました。

しばらく日本に滞在し、ラスベガスへ戻りました。結婚生活の責任のプレッシャーのせいか、以前にも増して、彼はお酒を飲むようになり、次第に私に暴力を振るうようになりました。結婚する前は、暴力など振るう人ではなかったのですが、結婚後の彼は変わってしまいました。平安もなく、ひがみ、嫉妬し、暴力を振るう、そんな生活でした。その時も、対象は何か分からなかったのですが、まだぼんやりとしてでしかなかった神様へ祈っていました。

ある夜、彼と喧嘩し、暴力を振るわれ苦しみの中にいるときに、家のドアをノックしてくる人がいて、その時も「ああ、助かった、誰かが助けてくれる」と、神様に助けられた気持ちがありました。そんな生活も長くは続かず、私は彼から逃げるため、家を出て4回ほど引越しをしました。彼と会わなくなると、また段々とあの辛かった日々を忘れかけ、仕事場まで追いかけてきた彼と、彼はもう違うかもしれない、と期待し、ふとしたことから縁を戻してしまいます。縁を戻して1ヶ月も経たないうちに、彼はまた暴力を振るうようになったので、私は彼の元を去って、ドロシーという知り合いの家の一部屋を借りて、一人で暮らすようになりました。その縁を戻していた間に私は新しい命を宿していることが分かりました。彼から私は自分を守るため、TPO (Temporary Protection Order: 接近禁止命令) を出してもらい、私を追いかけ続ける夫から身を隠し、法的に守ってもらいました。

2001年8月13日に、新しい命はこの世に産声を上げました。元気な女の子の赤ちゃんで、Trinity Anju と名づけました。彼は黒人だったので、赤ちゃんも混血の子でした。思った以上に肌の色は濃く、少し驚いた私に、当時ツアー会社で使っていたバス会社のドライバーだったフォンダはクリスチャンで、彼女が「神様は肌の色で人を見ているんじゃないだよ。神様の目には皆、高価で尊いんだよ。」と神様の話で私を励ましてくれました。

**** 次回へ続く ****

案内・ニュース

・ 7月28日—30日に持たれた南カリトリートは実に恵まれた修養会でした。メッセージを取り継いで下さった中野雄一郎師、中島一碩師、鍵和田哲男師に感謝します。また一年がかりで準備をして下さった実行委員の皆さんに感謝します。来年は150名の参加を目指しましょう。

・ ユキ・Meyer 姉、George 兄、荻原ゆり子姉、佐藤静佳姉、田尻勇兄が訪日中です。旅の安全と神様の祝福をお祈りします。主の守りをお祈りします。

・ 香織 Banks ファミリーがバハマに、また末廣真里菜姉がオレゴンに旅行中です。主の守りをお祈りします。

・ 転倒のため入院しておられた佐藤敏子姉のお母様が元気に退院されました。皆さんのお祈りを感謝します。

DREAMS COME TRUE

- ✦ 教会堂の建設
- ✦ 敬老ホームの設立
- ✦ 幼稚園の設立

